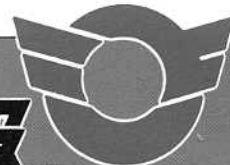




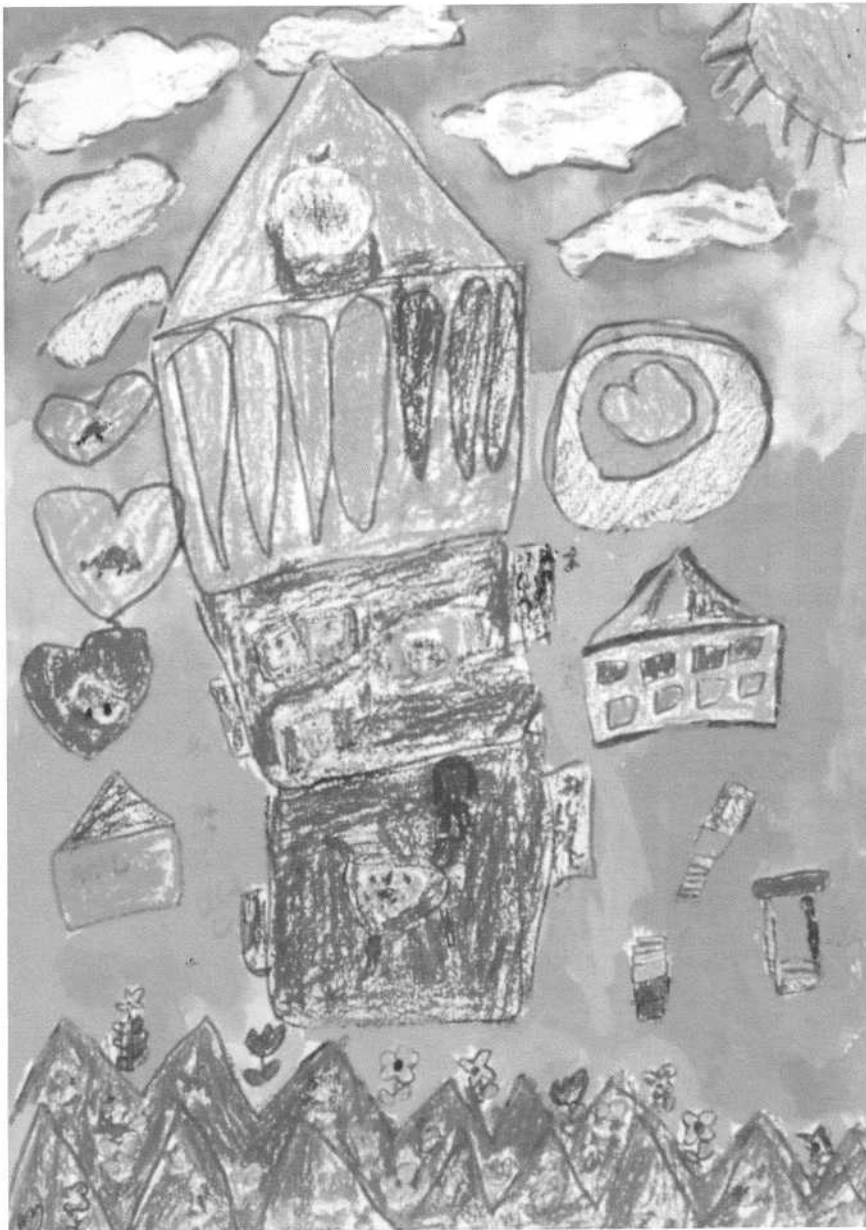
東濃ひのきと白川茶、村を代表する資源
を上空から見る。(平成元年11月19日)



No.346 12/15

広報 ひがししらかわ

発行 東白川村 ■編集 東白川村企画課 ■〒509-13 岐阜県加茂郡東白川村神土548番地
☎05747>8-3111・内線26 ■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷株式会社



未来の村の図画コンクール

東白川小学校2年 安江杏里ちゃん(平)

立村百年 年記念 特集号



記念大会	2～4ページ
記念展示会	5～7ページ
記念祭	8～10ページ
タイムカプセル	11～13ページ
歴史の証言	14～15ページ

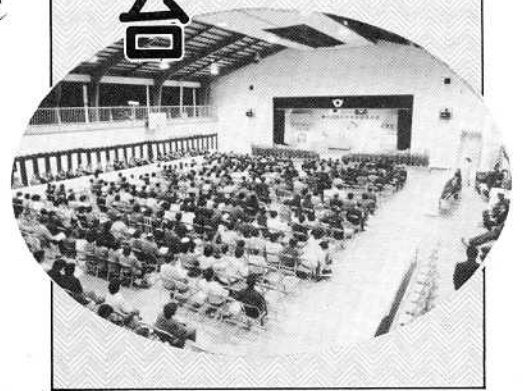
記念大会



振り返る歴史は

未来への

スタート台



「歴史の実りを未来の糧に／わたしたちの村は満百

歳を迎えました。これから記念大会を開きます。」

十一月三日、東白川中学校体育館で開かれた、立村

百年記念大会は、小学校一年生の服田健太郎君と安江

加代子ちゃんの元気一杯の開会宣言で始まりました。

「満百歳」の
祝いに五百五十人

この日、会場に集まったのは
総勢五百五十人。

お迎えした来賓は、衆議院議
員渡辺栄一氏、参議院議員藤井
孝男氏、青山・新藤両県議会議
員そのほか県当局、管内市町村
長など六十人のみなさんです。
午前〇時三十分、藤掛廣幸さ

ん作曲の「アンダーザ・レイン
ボー」をバックミュージックに
。あの頃、あの時」と題した八
分間のスライド上映が始まりま
した。

明治・大正・昭和と移り変わ
る激動の時代。そこにひたすら
生きる先人の姿。六十八枚の貴
重なフィルムに過ぎた百年を偲
び、場内の感動が高まりました。
ゆっくりとドン・チ・ヨウが上が
り、健太郎君と加代子ちゃんの
力強い開会宣言のあと、桂川眞
郷村長と古田議長が式辞を述べ
続いて、村の発展に尽力された
河田勘市さんら四十三人のみな
さんが功労者表彰を受けられ、
生前の功績をたたえて神戸彌助
初代村長ほか二十四人の故人の
方々に記念品が贈られました。
また、村出身の音楽家藤掛廣
幸さん、院展入選作「陽春」を
寄贈いただいた画家の田口愛子

さんら四人と二団体に感謝状が
贈られました。

この日のために小中学生三百
七十四人が書いた「未来の夢」
の中から、小学校六年生の古田
麻子さんと中学校三年生の安江
良浩君が代表で作文を発表。全
児童生徒の夢が、二人の手でタ
イムカプセルに納められました。
おしまいは、白川高校三年生
安江太一君のシンセサイザー演
奏と中学校の牧村先生の指揮に
よる村民の歌「みどりの里」の
大合唱で、大きく盛り上がりつ
幕を閉じました。

記念式典終了後は、野球評論
家の金田正一氏の記念講演が行
われ、会場は約七百人の聴衆で
超満員。

来年、ロッテの監督を引き受
けただけに、話にも一段と熱が
入っていました。



村立村百年記念大会



バイオ技術で農業を近代化へ…

東中三年 安江良浩（加舎尾）
 僕が第一に大切にしたいのは、美しい水。そして山、田畑です。この豊かな自然を守り、生かしながら、最先端のバイオ研究に取り組んでみたい。巨大な木や牛を育てるホルモン剤の研究。特別な香りがする花、家庭汚水を浄化するバクテリアの研究へと夢が広がります。そして、農林業にコンピュータを導入して栽培管理を行ったり、役場と個々の家とを結ぶ情報ネットワークで、市場や天候などの最新情報を流し、世界の中心となるような村をつくりたいと思います。

東白川村長 桂川眞郷
 日本が激動と苦難を乗り越えた激しい時代を、先人たちがあらゆる苦難に耐え、営々と築いてこられた尊い基盤の上に今日の村の発展があるものと確信いたします。
 このふるさとの自然を守り、地域の産業と良き伝統を後世に引継ぎながら、住み良い心豊かな村として悠久に栄えていくことを祈念しごあいさつとします。

- 二 (選挙管理委員・教員長)
- 文 (助役・収入役・職員)
- 二 (収入役・職員)
- 部 (職員・農業委員ほか)
- 部 (職員・文化財審議会委員)
- 夫 (職員・精薄者相談員)
- 夫 (職員・農協役員ほか)

消防交通安全功劳

—敬称略—
 古田 敬司 (消防団長・交通安全協会支部長)

教育文化功劳

—敬称略—
 田口 良三 (文芸・文化の振興)
 桂川 政一 (教諭)
 安江 正男 (校長・教諭)
 今井 房雄 (教諭・選挙管理委員)
 桂川 繁子 (教諭・民生委員)
 田口 一枝 (教諭・社会教育指導員)
 安江 光子 (教諭・公民館審議会委員)
 安江 政広 (教育長・職員ほか)
 田口 博 (教育長・職員)

記念品贈呈者 (故人)

—敬称略—

自治功劳

神戸 彌助 (初代村長)
 土屋 楨次郎 (二代村長)
 今井 栄介 (三代村長)
 菊田乙三郎 (四代村長)
 伊藤祐三郎 (五代村長)
 村雲英一郎 (六代村長)
 栗本 英吉 (七代村長)
 伊藤 稔 (八代村長)
 桂川 丈介 (議員)

- 安江 謹一郎 (議員)
- 服田 謹一郎 (議員)
- 伊藤 精吾 (議員)
- 安江 偶一 (議員)
- 安江 専一 (議員・農協組合長)
- 今井 好夫 (元満州開拓団団長)

保健衛生功劳

安江 新 (東白川病院創設・院長)
 田口 くめ (助産婦)
 桂川 ちか (助産婦)

産業功劳

田口 義吉 (農協組合長ほか)
 松岡 正平 (森林組合長・議員ほか)
 田口 清 (商工会長・議員ほか)
 今井 弘毅 (農協組合長ほか)

教育功劳

田口 純市 (校長)
 今井 透 (校長)

感謝状贈呈者

—敬称略—
 名古屋女子大学学長 越原 一郎
 名古屋商科大学学長 栗本 宏
 作曲家 藤掛 廣幸
 画家 田口 愛子
 岐阜部品株式会社
 東京東白川クラブ



村議会議員 古田眞之助
 私たちは、百年という節目の時を祝うにあたって、まずその労苦に対して心から感謝を捧げ、そこから学び取った教えを、これからの村づくりに生かさなければなりません。

村の発展に尽力され表彰を受けられたみなさんです。



生功劳

—敬称略—
 准 (民生委員)
 准 (民生委員・福祉協議会役員)

保健衛生功劳

—敬称略—
 一 (歯科校医・教育委員)
 上 (助産婦)
 春 (助産婦)

業功劳

—敬称略—
 安江 正逸 (茶生産組合長・議員)
 安江 慎一郎 (農協組合長 農業委員ほか)
 寺坂 五郎 (農協参事・職員ほか)
 今井 啓市 (商工会役員・議員)



フィナーレは「みどりの里」を全員で合唱



東白川の美しい自然をいつまでも...

東小六年 古田麻子（西洞）
今、私は、東白川村に一つの願いを持っています。

たとえ、五十年後が静かな村であっても、大都会になっていてもいいから、緑の多い東白川であってほしいということですね。春には、モンシロチョウを追いかけて、野山の花を摘み。夏には、川で水遊びをしたり魚取りをし。秋には、木の実を拾ったり、冬にはソリ遊びと、美しい自然の中で私はいままで育ってきました。私の子どもや孫も私と同じ遊びができるような、そんな環境であってほしいのです。

親に感謝で子供を育てる！

私の野球人生

用意した準備のいすがすつかり無くなるほどの超満員の人を前に、乗りに乗った金田さん。長島茂雄を四打席連続三振に打ち取ったのは、「勝つべき人が勝ったまで」と快気炎。それもこれも誰にも負けない足腰の強さがあったから。苦勞しながら育ててくれた親に楽を



させた。いといたうくだりでは涙を誘います。

評論家 金田正一さん

自治功勞

—敬称略—

- 河田 勘市 (村長・森林組長ほか)
- 桂川 富次郎 (議員・農協役員ほか)
- 安江 文一 (議員・農業委員ほか)
- 田口 稔 (議員・社会教育員ほか)
- 高木 史郎 (議員・自然保護員)
- 村雲 一男 (議員・農業委員)
- 田口 賢一 (議員・教育委員ほか)
- 村雲 茂 (議員・農業委員ほか)
- 古田 甲子雄 (議員・農業委員ほか)
- 今井 好美 (議員・社会教育委員ほか)
- 安江 文吾 (議員・教育委員ほか)
- 神戸 奨 (議員・農業委員ほか)
- 伊藤 精治 (議員・監査委員)
- 安江 尚真 (議員・林材組役員)
- 安江 勝哉 (議員)
- 村雲 忍 (議員・森林組役員ほか)
- 今井 悟史 (議員・農業委員)

桂川 安江 小池 樋口 敬村 雲 安江 安江

民

村雲 今井

保

熊崎 安江と 田口

産

「陽春」は私のすべて

百年の記念に、昨年の院展入選作「陽春」(一五〇号)を寄贈いただいた田口愛子さんに製作の苦勞をうかがってみました。「信州野沢を舞台にしたこの作品は、六月から八月中旬までの土・日と平日は仕事(服飾デザイナー)を終えてから徹夜に近い作業で仕上げたものです。作業は、パネルを作り麻紙を貼って、その上にドウサを何度も引きます。そして、大下図を

この本紙に写して着色にかかります。下塗り、中塗り、上塗りの順に百色ほどの色を塗り重ね、仕上げになると食料を買いだめして部屋にこもり、三時間書いて五時間眺める。一時間眺めて一筆を入れるといった作業の末、書き上げた作品です。花びら一枚の塗り重ねが約十回、気の遠くなるような作業の連続です。寝食を忘れ、全身全霊を打ち込んだこの作品は、私のすべてです……」



画家 田口愛子さん



功勞者表彰を受ける河田勘市さん

「陽春」は村民センター2階ロビーに展示してあります。



買えたよ洗濯機

わたしたちの暮らしの中心は一つの時代も家庭の居間にありました。

昭和の声を聞いて三十年、戦後の復興から、生活にゆとりを求めめる方向へ歩みはじめたころを再現したのが上の写真。

当時、三種の神器といわれたのが冷蔵庫、洗濯機、掃除機、これを揃えるのが庶民の夢でした。

「このころは子育てに苦しかったときでした。自分の着物を

がテレビ。日新月歩の家電製品の発展が続いている現代から見れば、展示された当時のテレビの何と古めかしいことか。

しかし当時としてははほしくてもなかなか買えぬ三種の神器以上の夢、又夢でした。



八・一七災害の惨禍を、足を止めて見つめる田口愛子さん。

今開く歴史の とびら

記念展示会



村民センターに思い出がよみがえった

ふるさとの百年間の歩みの人々の暮らしを中心に展示した立村百年記念展示会が、11月3日から5日までの3日間村民センター全館を使用して開かれました。

来館者は、1620人。時代は、階を上がるごとに現代から百年のかなたへとタイムスリップし、4階へ進むとそこは百年間の暮らしを再現した家庭の居間。さらに進むと小中学生の「未来の図画展」へと夢空間をたどって、大きな感動と、楽しさの余韻を残しました。

1620人 百年を辿る

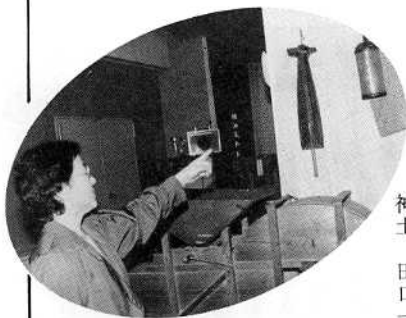


受付嬢は、着物にハカマ。気分は一気に大正時代へ。





耐えた…心で泣いた悲しみの部屋



三つに区切った居間の中で、訪れた人たちの心を最もその時代に引き寄せたのが、この戦中戦後の居間。
言葉に表わせない複雑な気持ちと強烈な体験の思い出が錯綜したことでしよう。
一枚の召集令状（赤紙）で引きさかれた家族との別れ。
立村百年記念として寄せられた短歌の中にも次の一首がありました。

戦争に夫失いてとまどえる
我をさゝえし子らは既に親
神土 田口一枝

涙を浮かべて、じっと居間を見つめていた田口良子さん（平）は「身にこたえた思い出がこみあげついで涙が……。この時代はちょうど私の子供のころ。茶わん一つ割ろうものなら閉め出されて体罰。手間不足で何かと手伝わされ、ドシャ降りのなか暗やみを稲光りを頼りに田の水を見に走り廻ったこともあった。」とこの居間の思い出はつきないようです。
無言でじっと見つめる人々の胸に多くのことを語りかけたコーナーでした。

あ父ちゃん、やっと

訪れた親の思い出話ですが、この時代よりあとに生れた子供たちは「こんなの使えたのお！」とあっさり片付けてしまいい時代の違いを感じさせます。
そして登場したの



階段は年表。時代は、階を上がるにつれてうつり変る。

写真に触れるほどに目を近づけ、当時の面影を偲ぶ。

この年代のことならお父さんが一番良く知ってるヨ。



我が家の平成元年



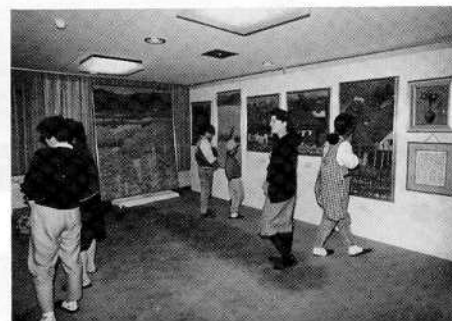
523家族が仲良く記念写真を写しました



小学生図画 248点、中学生図画 129点



お母さんゆっくり見てねボク寝てるから...



はじめて日本画の大作にふれた田口愛子作品展



記念文化展、短歌、俳句など 249点

いろいろがほのぼのと暮らしを温めていた

百年前といえば、明治二十二年。大日本帝国憲法が公布され、「君が代」が国歌に制定された年でもあります。

また、東海道本線が全通したこの年、村では、人口千五百一人の神土村、千二百六十一人の越原村、七百四十六人の五加村が一つになり、人口三千五百五十一人、六百十四戸の東白川村が誕生しました。

この当時の暮らしを体験した人は、すでにこの世を去り、語り継がれた話と当時の文献がそれを知る唯一の手がかりでした。そして、村の文化財審議会のみなさんの時代考証に基づいてできるだけ忠実に再現した百年前の居間が、上の写真。

「いろいろ」を囲んで話しをし

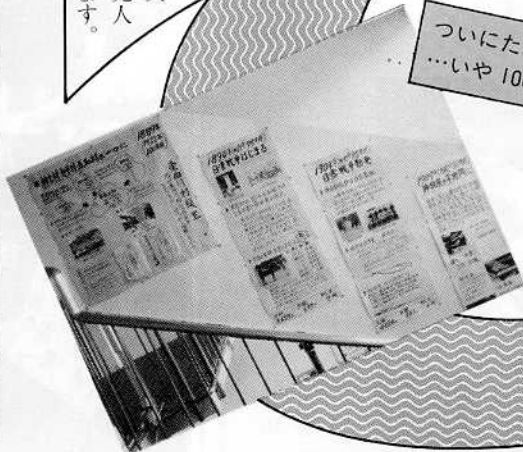


ながら、わら細工をした生活が偲ばれます。

素朴さの中にも、温かさを感じる居間。これが暮らしの原点ではないでしょうか。

土間に置かれた農具からは、たくましい先人の意気が伝わってきます。

ついにたどり着いた、4階...
...いや 100年前へ...



満腹

- 農産物品評会、入札
- 銘木 100 本展示会
- ミニ体力健康展
- など全47出展

記念祭



ヘリコプターから見た記念祭会場、駐車場を埋め尽す車とテントの周辺の人の群れ、上空までそのにぎやかさが伝わって来た。
(19日正午)



平西チーム



大明神チーム



加舎尾チーム

仮装大会



常磐会チーム



平西チーム



綱引き大会

男子優勝 大明神営農組合
女子優勝 中谷・加舎尾・西洞 婦人部

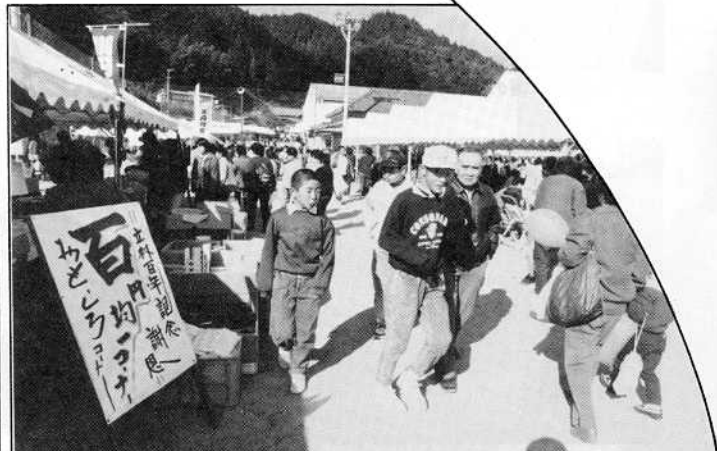
小中学生 308人

● 空から百年の郷土を見る

「只今から水平飛行に移ります。シートベルトは外してもよろしい」乗員から案内がある。と一斉に窓の外をのぞき込みます。はじめて上空から見る村の姿は、いったいどこなのか分りません。「現在日向の上空です。向うに加子母村が見えます」くねくねと流れる白川を見て、やっと見



当が付いて観声上がる。それにしても、山、山、山、東白川村の資源は山だと実感した六分間の飛行でした。



度 多彩な催しに2,500人

にぎやかに記念イベントの打ち止め

- 功労者表彰
- ギネス村一番
- 綱引き大会
- 野菜即売会

丸焼き・1037皿)
へり遊覧体験 354人)
チーム・176人)
出品4品目60点)

ぎや
大会

野菜生花展

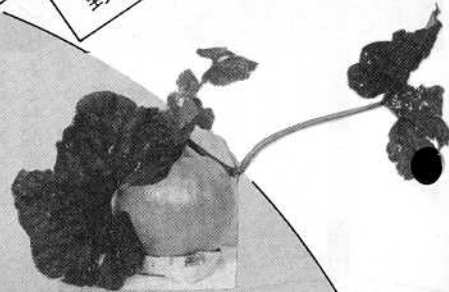


中田流 菜花

中田流

立村百年記念行事の最後を飾る記念祭が、十一月十九日、東白川中学校体育館と隣接の神土運動場を会場に開かれました。
来場数二千五百人。即売コーナーが軒を連らねて並ぶ目抜き通りは、肩がすれ合うほどにこった返し、特に呼び物の「牛一頭丸焼きコーナー」や「にぎや仮装大会」は人気の的。この日、十八便を運行した村内無料送迎バスは、約三百二十人の足となり、会場は終日にぎわいました。

野菜生花展



高井流

◎団体成績
★大根 村雲勝(日向) 八・六鉢
★紅かぶら 桂川卓也(黒淵) 十九・四鉢
★白菜 今井真平(日向) 七・九鉢
一位 日向・二位 黒淵



ジャンボ野菜コンテスト
野菜づくり名人称受賞者 敬称略
審査基準 胴回り・重さ 出展数 六十名
★桜島大根 安江吉春(加舎尾) 五八・九鉢

平成元年ギネス村1番

=敬称略=

ヤーコン	5.5kg	大明神	田口道江
夏大根	3kg	柏本	古田順子
蛇胡瓜	204cm	陰地	松岡勝
かぼちゃ	47kg	加舎尾	藤井たえ
栗	4つ玉	日向	田口安幸
コスモス	210cm	加舎尾	樋口章久
カラスビシャク	48.5cm	平	伊藤重雄
うなぎ	1850g	大沢	今井房雄



農産物品評会結果

〈団体の部〉1等賞 神付営農組合
2等賞 黒淵・栃山営農組合
3等賞 親田営農組合

村づくり功労者

=敬称略=

桂川耕作	大明神	夏秋トマト	振興
安江清志	西洞	夏秋なす栽培	による
安江康助	上親田	和牛となす栽培	の複合
むらおこし特産品		新しい特産品の	開発
開発グループ		開発	
(安江利一・安江万利子・安江浩・熊沢梅子・金尾和子)			
安江輝夫	柏本	土地改良	推進
田口克郎	陰地	東濃材販路	拡大
安江美好	中谷	茶専業	経営挑戦

百年 にー



- 東白川牛・素敵 (牛1頭丸)
- 小中学生を郷土の空から (かぞう)
- にぎや仮装大会 (出場者22名)
- ジャンボ野菜コンテスト (出品者)

呼び物の牛一頭丸焼きコーナーは、五百円で百五十頭のステーキが食べられるとあって大人気！
体重五六〇斤、百万円相当の特大東白川牛がペロリと平げられた。

ステーキ、素敵 162kg



焼き肉にした分は、骨、脂肪を除いた百六十二錠で、皿数にして千三十七皿。好みに合わせて焼く炭火コーナーはいつも満員の盛況でした。



にぎやかそう 仮装大



▲大口チーム



▲柏本チーム



園向チーム

仮装大会
集落 19チーム
個人 3チーム
とにかく写真をご覧ください



大飛チーム

村外から100人を越すお客さま

この日、東白川村木造建築協同組合は、今年十月までの一年間に東白川の木造住宅を注文し、完成した五十四世帯を対象に、村への招待イベントを行いました。招待に
お誘いの松茸ごはん食べ放題で、文字どおりふるさと東白川を満喫しておみやげ一杯で帰途に着きました。



ふるさと会が行った「体験イベント」には四家族二十一人が参加し、合せて百人以上の村外のお客さまを迎えたわけです。子供連れはさっそく牛の丸焼きコーナで食欲を満たし、奥さま方は特産品コーナで買物欲を満たし、だんなさまはワンカップのお酒でござげん。

香良洲町海産物人気を呼ぶ！

今年の夏、交流協定を結んだ三重県香良洲町の「海産物即売コーナ」では、ハマグリ一器入り百五十袋とキスのみりん干、イワシの丸干、イカスタレ各百袋を即売し、人気を呼んでいました。また、香良洲町から訪れた十五人の招待者と、交流を深める席がもたれました。



タイムカプセル

入っています

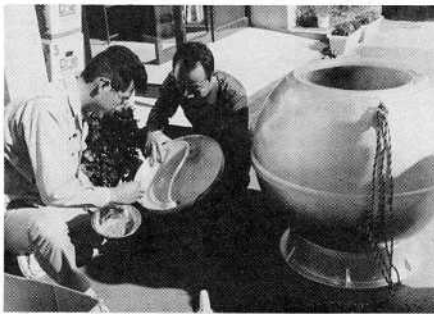
あなたためのメッセーヂ

開封は二〇三九年



願いを引き継ぎ

カプセル君、50年間預けたぞ！



十一月十二日、二十一世紀への願いを込めた立村百年記念タイムカプセルが、東白川小学校遊びの広場に埋設されました。

このカプセルはガラス織物に、空気を注入して作業完了です。

これで、収納物は腐食することなく五十年間眠り続け、二〇三九年には五十年前の状態で、わたしたちの願いを伝えてくれることでしょう。ちなみに収納品の重さは六十四錠ありました。



五十年へ……

「西暦二千三十九年の、岐阜県加茂郡東白川村、村民の皆さん……と呼んでいるのかあるいは呼び名が変わっているのでしょうか？」

こんな書き出しで始まる村長の二十一世紀へ贈るメッセージが、タイムカプセルの埋設に立ち合った五百五十人の人たちに披露されました。この日、小学校の父親参観

が行われ、全校児童と父兄がこの埋設を見守りましたが、子供たちは五十年後に再びこのカプセルに会える



歴史の実りを
未来の輝き!!



のだ……と期待に目を輝かせ、お父さんたちは会えるか会えないか微妙な年齢とあって少し複雑な表情でした。つづいて、アルゴンガスといっしょに今の私たちの気持ちを一杯に詰め込んだ直径八十五センチ球型のカプセルが、大人五人がかりで地下のコンクリート容器に納められ、そのあと村関係者と児童たちが、用意された焼砂を容器のすきまに流し入れました。

このカプセルには、十一月三日、記念大会で紹介された小学生全員の作文「未来の夢」のほか、家族からのメッセージなど、別表の約三百三十品目の品物が納められています。現在のわたしたちには、何んでもない物も、五十年後にどのような価値があり、どのように評価されるのか楽しみで、目を輝かせて埋設を見つめていた子どもたちが、二〇三九年にカプセルを開封し、次々と五十年サイクルで埋設を繰り返すように引継いでくれたなら、私たちの夢も永遠に伝えられていくことでしょう。そんな期待を抱かせた一日でした。



タイムカプセルを取り囲む子どもたち。幼いころの自分の夢に出会う日を楽しみに、目を輝かせて焼砂を入れる。



こんなものを納めました



産業・経済関係

土木・建設 建設物価・現況道路の写真・村内主要の橋梁写真・ほ場整備前と後の写真・設計書・工事写真・建設機械カタログなど

農林業 白川茶・米・野菜等の種子・農林業機械施設の写真・パンフレット・農作業の写真・農協だより・統計資料など

商工・観光 夏まつりの写真・村の特産品パンフレット・村内観光案内図・商工業関係の写真・商工だより・商工会総会資料など



教育・民生・行財政関係

教育 小中学生による作文・学校行事の写真・教科書・校歌のテープ・学校給食の献立・文化協会など

民生・福祉 世帯名簿・保育園児の写真・各種住民、福祉資料

医療器具のカタログなど

企画・財政 村勢要覧・広報ひがしらかわ・決算書・事務報告書・有線放送番号簿・各統計書など

生活・趣味・娯楽関係

新聞 中日・岐阜・中スポ・日本農業新聞ほか

雑誌 週刊朝日・週刊現代フライデーほか

お酒 ワイン・日本酒および洋酒のカタログ

タバコ マイルドセブン・ハイライトほか

薬 かぜ薬・胃腸薬・バンドエイドほか。

お金 現在の流通紙幣・硬貨各1種

切手・ハガキ 切手各種・官製ハガキ

衣類 紳士用・婦人用下着

ファッション雑誌・靴

食品 インスタント食品・お菓子・料理の本・缶詰・スプーンほか

すまい 東白川の家パンフレット

家庭用品 家庭電化製品のカタログ・歯ブラシほか

化粧品 婦人用・男性用化粧品とカタログ

あそび・趣味 ブラモデル・パズル・カメラ・乗物・ワープロなどカタログ

音楽 音楽情報誌・生カセットテープなど

スポーツ スポーツ用品カタログほか

結婚 結婚式写真・カタログほか

地図 村・住宅地図

文房具 鉛筆等カタログ一式

その他 槌の子グッズ・テレカ等



◎村長からのメッセージ
◎小学生代表からメッセージ
◎家族からのメッセージ300通

立村百年 記念誌・記念ビデオ・記念品・各大会資料など

総務・税務 村章バッチ・議会議員名簿と写真・役場・村民センターの写真・くらしと議会・土地・家屋の概要・村例規集など

消防 消防施設の写真・平成元年度消防団編成表・団員手帳・災害対策関係資料など

以上

生活関係 117点

産業関係 40点

教育・行政関係 74点

合計 231点



時代の鏡、歴史の面影

古い写真に偲ぶ

ふるさとの姿

村内から提供された貴重な記録

今からちょうど百五十年前、千八百三十九年八月十九日、パリでルイ・ダゲールという人が発明した「写真術」が公表された。

それから今日まで「写真」はわれわれ人間に、実に多くの楽しみを与えてくれた。

立村百年を迎えた私たちの村が、過去を振り返り、先人の苦勞を偲ぶことができるのも、写真があればこそである。

また、今の東白川村の姿を後世に残すのも写真に負うところが大きい。

立村百年の記録最終回は、写真で締めくくることにしよう。

歴史の証言・立村百年の記録（最終回）

私たちの村

で始めて写真が写されたのはいつだったか。

正確に知ることはできないけれど、人物写真

は明治二十五年のものが残されているようである。

当時は人物は写しても、風景やスナップを写すことは少なかった。

右の写真、若松屋前店、明治三十五年四月撮影ス……は貴重なものと思われる。

屋根の左にある広告は今でも「中将湯」、右と下に立てかけてある看板を拡大鏡を使って苦勞して読んだら、何と「ばい毒」と読めたのであった。



明治35年・若松屋前店（神土平）



昭和27年・平えんてい（東白川病院下）



明治41年・平向いから写す



平成元年12月、上の写真と同じ場所

平の街なみの写真はかなり残されているが左上のものは川向うから撮影したもので、良く注意して見ると丸木橋の上に子供が二人、明治四十一年「白川の清流の景」とある。

このように写真は、あるがままの姿を記録し、永久に残すという「絶対的」な力を持っている。その時には何でもない風景でも、あとになつて非常に貴重な記録となる例は多い。

の時のへだたりがある。上と下は昭和二十七年、平堰堤の工事を写したものであるが、目的とした堰堤よりも向うを走っている乗合バスの土煙のすさまじさと、下の写真の遠くに、白川製糸の建物が写っており、こちらのほうが貴重で面白いと

い。昭和に入つて写真があたりまえのようになり、普及し、かつてその貴重さが薄れてしまつた感があるけれど、失われ行くもの、伝統の風習、今の生活のスナップなどを写真に残し、ネガを保存しておきたいものだ。

立村百年を契機に村内からたくさん提供していただいた写真の中で未公開のものをここで紹介し、時代の変遷をたどってみたいと思う。



平成元年・右の写真と同じ場所



昭和27年・平えんていから上流を写す

働く姿の中に 時代の顔がある

時代の顔がある

昔は山までわざわざカメラを持って行って写真を撮るなどということはほとんど無かった。

したがって左の三枚の写真は村内にもほとんどこれだけという貴重なものであるが、中でも左上の一枚は、木馬の棧橋(木を橋のように組合せて作った木馬の通り道)を下から写したもので、この橋は四十〜五十センチ間隔に横木があるだけ、その空間に足を踏み外せば、地獄の底へ真っ逆様という風景、棧橋を渡りつつある木馬に注目されたい、あなたの足が思わず凍る

でいますよ……。

左上から

三枚目の修羅という木材の搬出方法は、搬出する木材そのものを大きな種のような組合せ、これに水を打ってすべり易くしておいて



昭和30年代・苗代にもみをまく

たびたびであった。今は稲の苗は農協へ頼んでおけば届けてくれて、植えてもくれる。昔は稲作り

は苗作りから始まった。

右の写真は苗代の稲蒔きのひとこまでである。

等間隔に細い筋をつけて、そこへ糞を落とす、焼土で覆土して水をつける、田の面に落ちた影は午後三時頃だろうか、春の陽の暮れるまでに、何とかして蒔き終えたものだ……。

「米ひき

女工」……。

何となく

哀愁を感じ

させる言葉

である。

鍋に煮立

てた繭から



大正時代・製糸で働く女工

糸口をとる(絹糸の端を取り出す)乙女の指は真赤になって、冬はそこにあかぎれが切れて痛い……。(写真右下)

子供の姿にも時代が写る

子供を背負うということもこのごろは少なくなった。

下の写真のように、お姉

さんが弟や妹を背中におんぶして子守をする風景などそれこそ遠い思い出の子守歌の世界にあるだけ、上の子供は下の子供を子守りするもの……というキマリはいつ消えてしまったのだろうか、そう言えば子守りという字を「こまもり」と読まれないために、ふりがなを打ってしまう現代である。

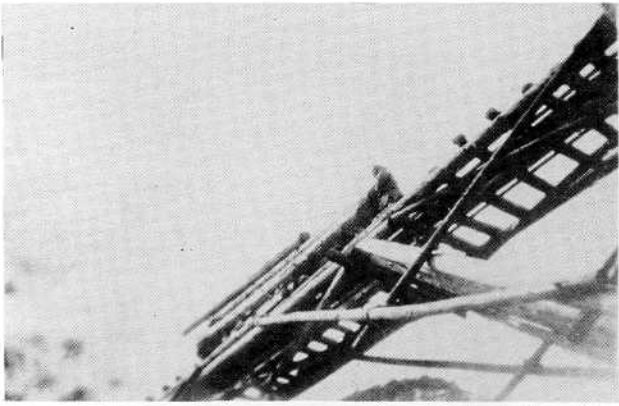
子守りをしながら自分も遊ぶ、赤ちゃんがぐずれば上手にあやす、子供のころからお母さんの体験を自分の体験と重ねて生きてきた

そういう人生と、母親になるまでは母親の世界とは無関係で過ごすことの多い現代の女性とを比較して考えることは、無意味なことであろうか、この一枚の写真はそんなことを考えさせてくれる。(終)

十八回にわたって掲載してきたこのシリーズを今回で終ります。新しい年は新しい村の百年への出発です。新企画でお目にかかりましょう。



ミゼットのての上であそぶ子供



上・高いさんばしを渡る木馬



さんばしの上でひと休み



谷間を走るスラ



お姉ちゃんは下の子を守りした

短歌で綴る 立村百年総まとめ

一年の暮らしの中にも正月、盆、お祭りなどいくつかの区切りがあつて、生きていることに変化を与えているように、

歴史の流れにも区切りがありま

す。東白川村立村百年の年は、年号も平成と変つてこのうえない大きな区切りの年となりました。

槌の子が村の名前を

広く全国にアピールした五月、三日から五日にかけて行われた捕獲大作戦で記念行事はスタートしました。

百歳の齢い重ねし村里に、槌の子出でよ祝

上空から見た神土、平
(平成元年11月19日)

主な立村百年記念行事の成果

▶ 槌の子捕獲大作戦	5/3・4・5	288人
▶ 花の道づくり	6/26・10/29	266人
▶ 香良洲町交流調印式	6/28	44人
▶ ふるさと夏まつり	8/14	2,000人
▶ 100イニングソフトボール大会	8/26・27	600人
▶ 9/10	9/10	600人
▶ 婦人ふれあいの集い	9/9	279人
▶ 老人まつり	9/15	310人
▶ 記念大会(式典)	11/3	550人
(講演)		700人
▶ 記念展示会	11/3・4・5	1,620人
▶ タイムカプセル埋設	11/12	500人
▶ 記念祭(全体)	11/19	2,500人
(ヘリコプター塔乗)		354人
(ステーキ試食)		1,037人
(仮装大会出場)		176人
▶ 白川茶発祥の地看板建立	11/13	40人
▶ 蚕霊碑建立	11/23	50人
▶ 故松岡正平氏顕彰碑建立	11/7	100人
▶ 記念テレカ注文		180人
▶ 記念ビデオ注文		380人

のしるしに

五加・三

戸きり

カメラ手

に槌の子探

しの陽は沈

む、故郷白

川の流れ美

し

可児市・

小池きぬゑ

十一月三日から五日までの記念展は過ぎ来し方を振り返る機

百年を守りて生きし村人の、その労伝へよ後の世までも



陰地、日向地区

会となりま

した。

百年の昔

の話わが母

も、寺に奉

公した事も

ある

神土・安

江すみよ

百余年耐

えにし先祖

の石積は、

基盤整備の

礎となり永

遠鎮まる

越原・安

江香

神土 小池弘子

百年という時の流れを思うと

き、祖先の労苦を偲ぶのが人の

情というものでしょうか。

大正、昭和と、七十余年を過

ごし来て、祖先につながる吾を

思へり 神土 伊藤美枝

百年を過ぎたる植樹今も尚、

鋒先の如高くそびゆる

神土 早瀬勇造

多くの感慨を人々の胸に残し

て立村百年の年は過ぎ去りまし

た。

山の端に月はまどかに百年の

村を照らして秋の雲行く

神土 安江龍玉

百年を迎へし村は繁栄し、又

百年を夢にたくして

神土 安江久子



柏本地区